

2019年7月期 決算補足説明資料

2019年9月12日
VALUENEX株式会社
東証マザーズ：証券コード4422

1

事業概要

2

2019年7月期業績報告

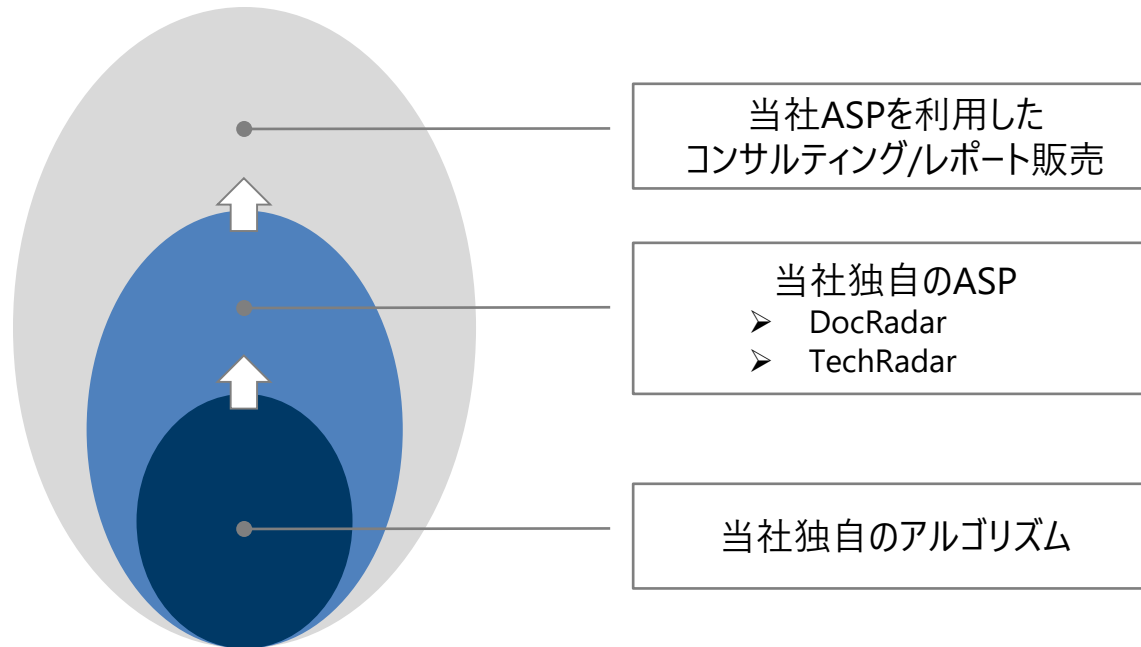
3

2020年7月期業績予想

当社のアルゴリズム事業について

当社独自のアルゴリズム^{注1}は大量の文書データ間の類似性を計算し、その関係を可視化するものであり、2つの販売形態を展開しております。

- 1) 当該アルゴリズムに基づくASP^{注2}
- 2) 本ASPを活用したコンサルティング/レポート販売



当社のアルゴリズム事業は、予測分析(プレディクティブ・アナリティクス)^{注3}に応用可能なアルゴリズムであることを最大の特徴としております。

注1：アルゴリズムとは、問題解決のための具体的手順のことです。

注2：ASP（Application Service Provider）とは、インターネット等のネットワークを通じて、アプリケーションソフトウェアを提供するサービスを指しております。

注3：経験的証拠からの学習により、個人/企業/政府などの行動を予測し、より良い意思決定を導く技術を意味しております。

サービスコンセプト：俯瞰解析とは

大量の文書データ間の関係性を独自のアルゴリズムにより計算・可視化し、意思決定・戦略構築のご支援をします。

BIG DATA

CLUSTERING

VISUALISATION

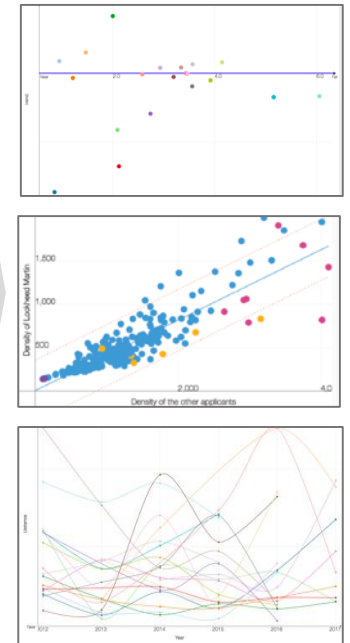
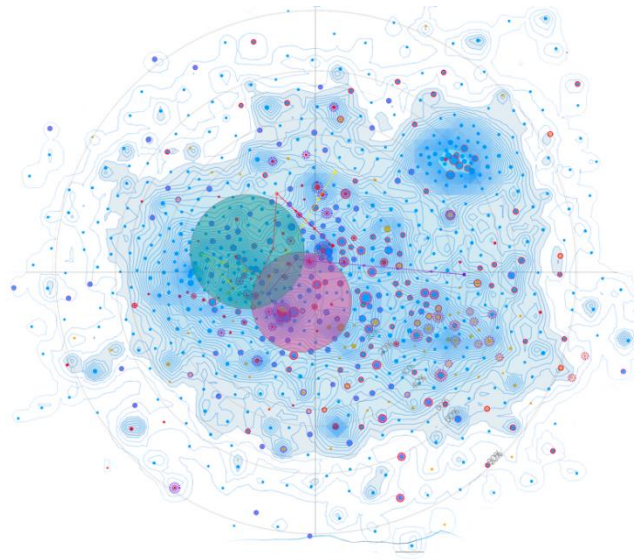
ANALYTICS

特許、論文、SNS、記事、
アニュアルレポート 等

文書間の類似性に
基づいたクラスタリング

クラスタ同士の類似性に
基づいた可視化

様々な指標化による
定量的な解析



サービス概要

サービス分類		概要	主要対象顧客	対象文献	データベース
ASP	TechRadar	Scope 最大1,000件まで特許を高速可視化	特定の特許や技術の類似特許を検索・可視化したい方が対象	特許	付属
		Vision 最大10万件までの特許を可視化・解析	業界・技術分野や企業の研究開発領域を俯瞰解析したい方が対象		
	DocRadar		最大10万件までの様々な文書データを可視化・解析	特許以外にも、学術論文、クチコミ情報、アンケートデータ、商品紹介等の多様な文章データを俯瞰解析したい方が対象	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 特許、論文 ✓ 新聞記事 ✓ SNS、アンケート、クチコミなど
コンサルティング		顧客の課題に応じた調査・解析及びコンサルティングを当社が実施	調査/解析する時間・人材がない、もしくは結果だけが欲しいといった方が対象		
レポート販売		当社が独自に調査・解析を行い、簡易レポートを提供			

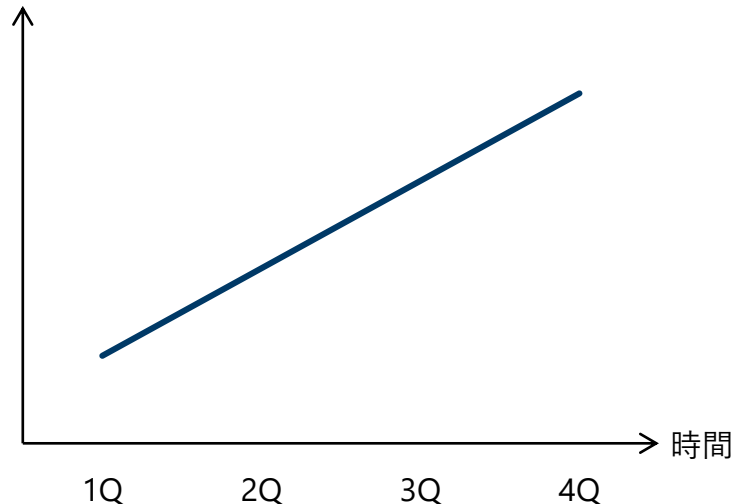
売上構造について

当社グループの売上はASPとコンサルティングから構成されます。現状、連結売上に占める日本法人の割合がまだ大きく、特に、コンサルティングは日本法人において例年3月に売上が集中する傾向にあるため、第3四半期に売上が増加する傾向にあります。

ASP

- SaaS^注ビジネスの特性上、ストック型（積み上げ）の売上モデルとなる

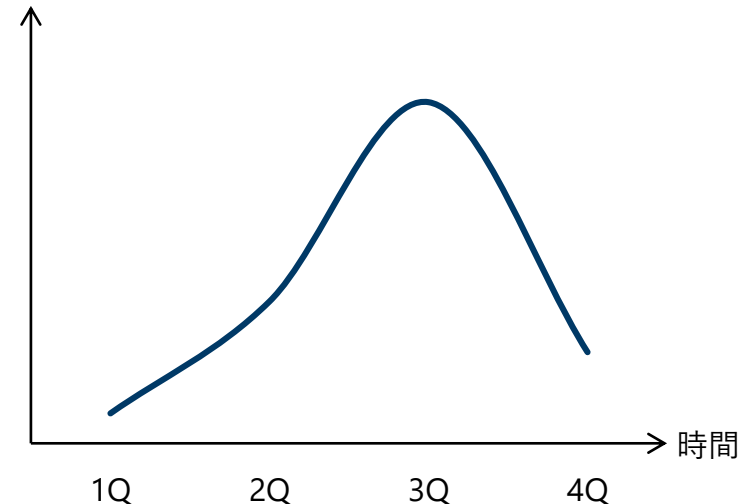
年間売上
イメージ



コンサルティング（日本）

- 国内の上場企業及び官公庁への納期が3月に集中するため、当社では第3四半期に売上の大部分が計上される傾向にある。フロー型の売上モデル。

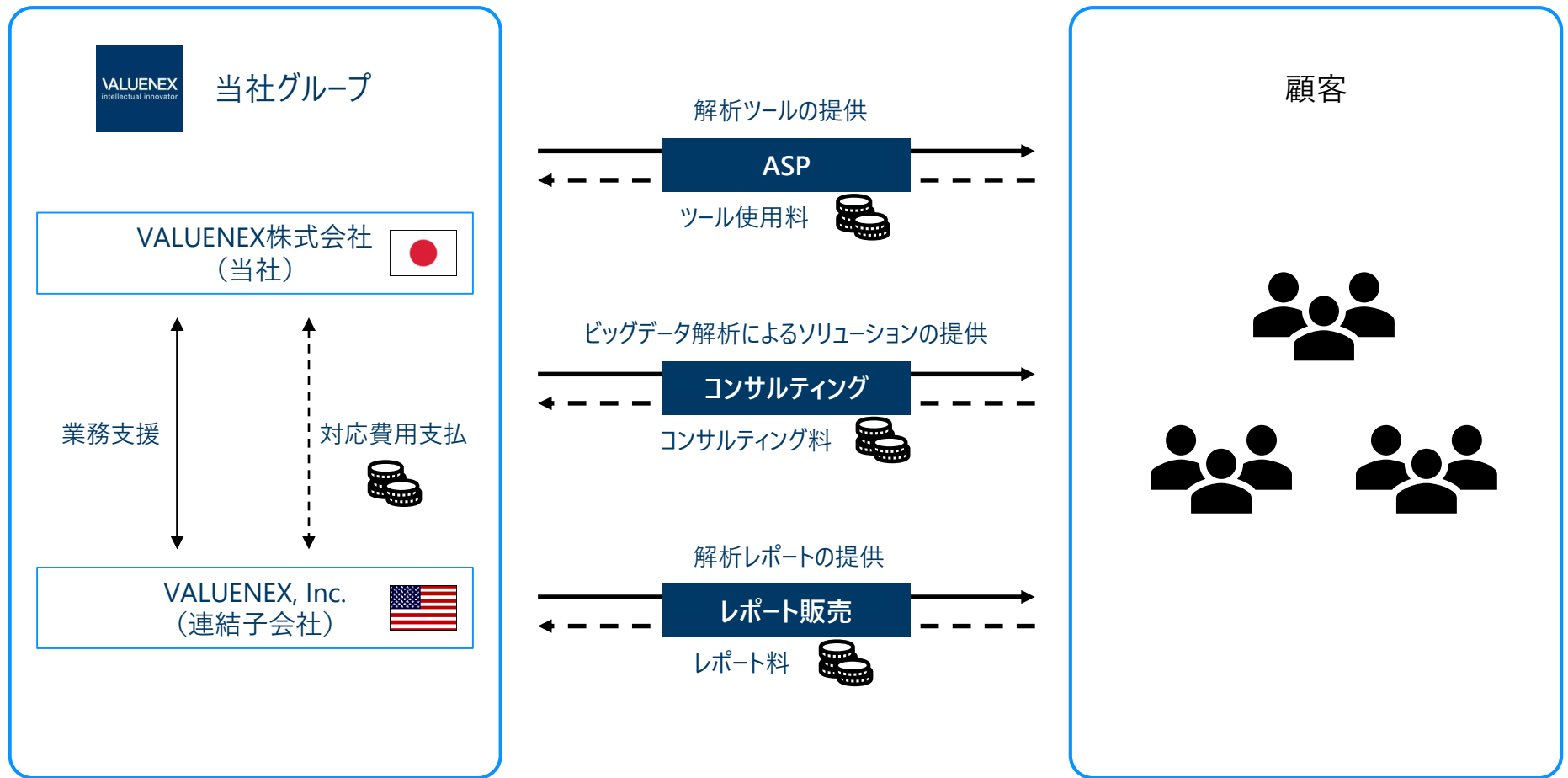
年間売上
イメージ



注：SaaS（Software as a service）とは、インターネットを経由してソフトウェアを利用するサービスのことを指します。

事業モデル

当社独自の解析ツールの提供、俯瞰解析から予測分析・戦略活用までのコンサルティング／レポート販売しています。



注：図中の実線矢印はサービス提供を意味し、破線矢印はお金の流れを意味します。

1

事業概要

2

2019年7月期業績報告

3

2020年7月期業績予想

2019年7月期 決算ハイライト

1

【業績総括】

売上は前年を上回ったものの、
売上・利益ともに計画未達。

- 売上高：557百万円（前年比+9.9%増、計画比▲19.2%）
- 営業損益：▲76百万円（前年比▲153百万円、計画比▲183百万円）
- 経常損益：▲92百万円（前年比▲169百万円、計画比▲198百万円）
- 最終損益：▲108百万円（前年比▲191百万円、計画比▲229百万円）

2

【国内状況】

売上・利益ともに計画未達。

- 事業拡大をより安定的に図る目的から、計画を前倒して採用を行ったため、営業要員の育成が追い付かず、ASP/コンサルティングともに、新規顧客へのアプローチが当初想定よりも十分に行えない結果に
- 費用面に関しては、上場及び事業拡大に要する投資関連のコストが発生

3

【海外（主に米国）状況】

売上・利益ともに予算概ね
達成。

- ASP：複数の大型商談に営業要員を集中していたが、契約条件について折り合いがつかず、2019年7月期中の成約に至らず（継続中）
- コンサルティング：前回業績予想以上の高単価案件を受注したことにより、当該売上は上振れの結果に

2019年7月期（2018年8月～2019年7月） 連結業績概要

売上高は前期比+50百万円（約10%増）増加しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は事業拡大及び上場に係る一時費用により約108百万円の損失を計上する結果となりました。

単位：百万円

	2018年 7月期	2019年 7月期	対前期 増減額	対計画 増減額
売上高	507	557	50	▲132
営業損益	77	▲76	▲153	▲183
営業外費用 (上場関連費用)	1	16	14	15
経常損益	77	▲92	▲169	▲198
法人税等	▲5	16	21	30
親会社株主に帰属 する当期純利益	83	▲108	▲191	▲229

注：小数点処理のため、金額と対前年同期比の計算が一致しない可能性があります。

計画差異について（売上高）

海外（主に米国）はほぼ計画どおりの結果となりましたが、国内がASP、コンサルティングともに計画を大きく下回りました。

単位：百万円

	国内			海外			連結		
	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比	計画	実績	計画比
ASP	269	206	77%	46	11	24%	316	218	69%
コンサル	312	243	78%	61	95	156%	373	339	91%
合計	581	450	77%	108	107	99%	690	557	81%

ASP/コンサルともに計画未達

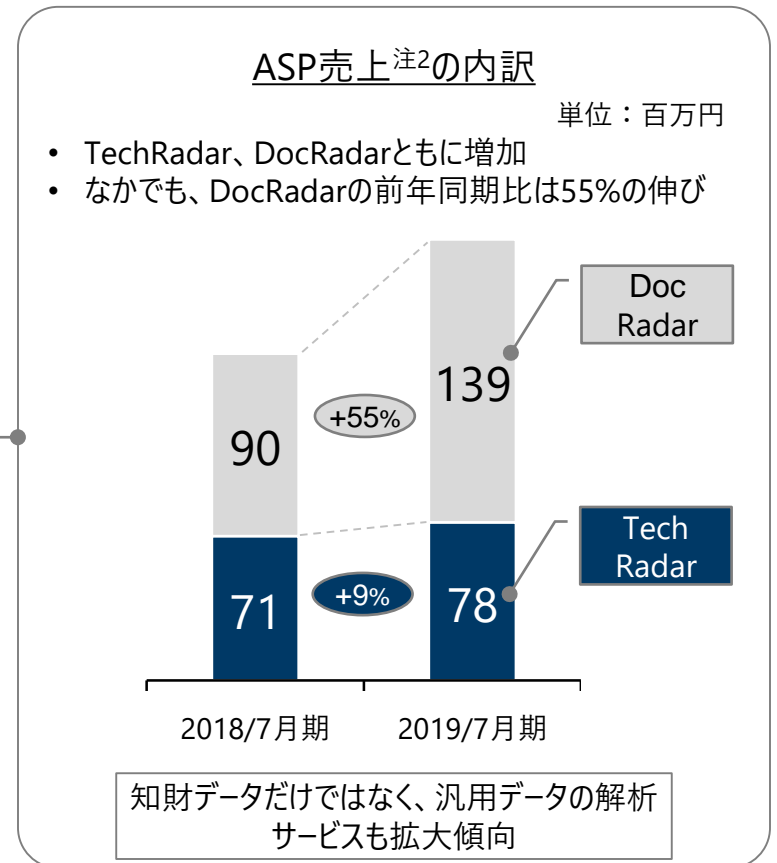
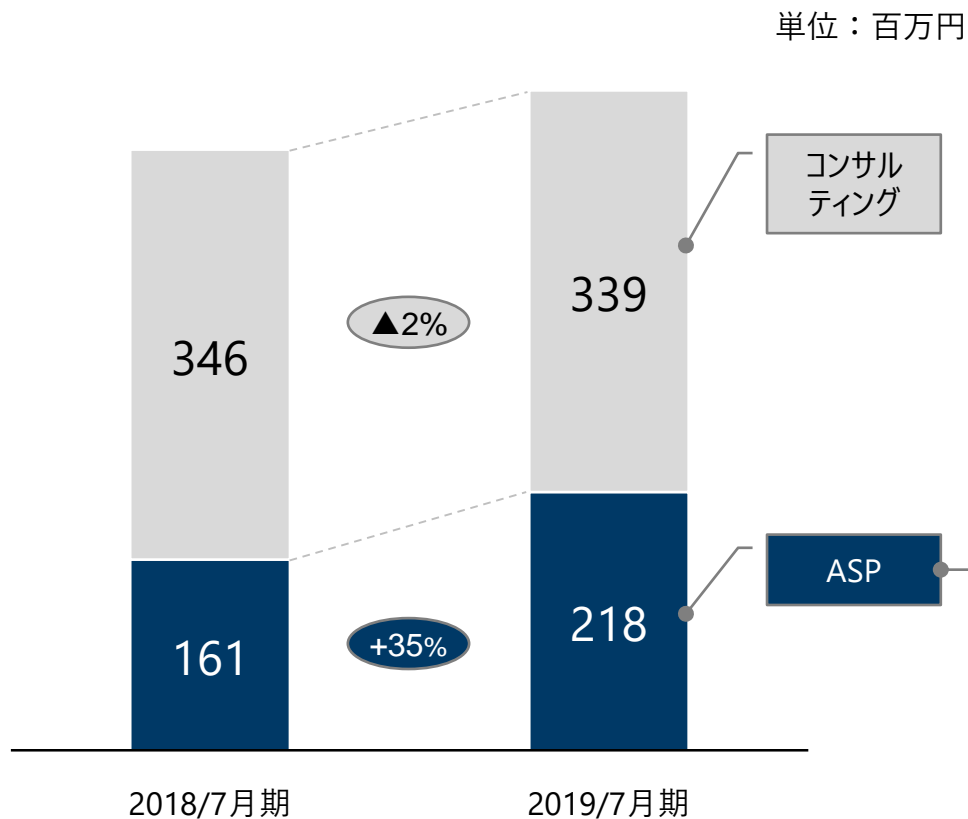
全体ではほぼ計画どおり

計画を大きく下回る

サービス別売上 ～2019年7月期～

サービス別売上の対前年同期比は、コンサルティングは2%の減少、ASPは35%の増加となりました。

サービス別の売上^{注1}内訳



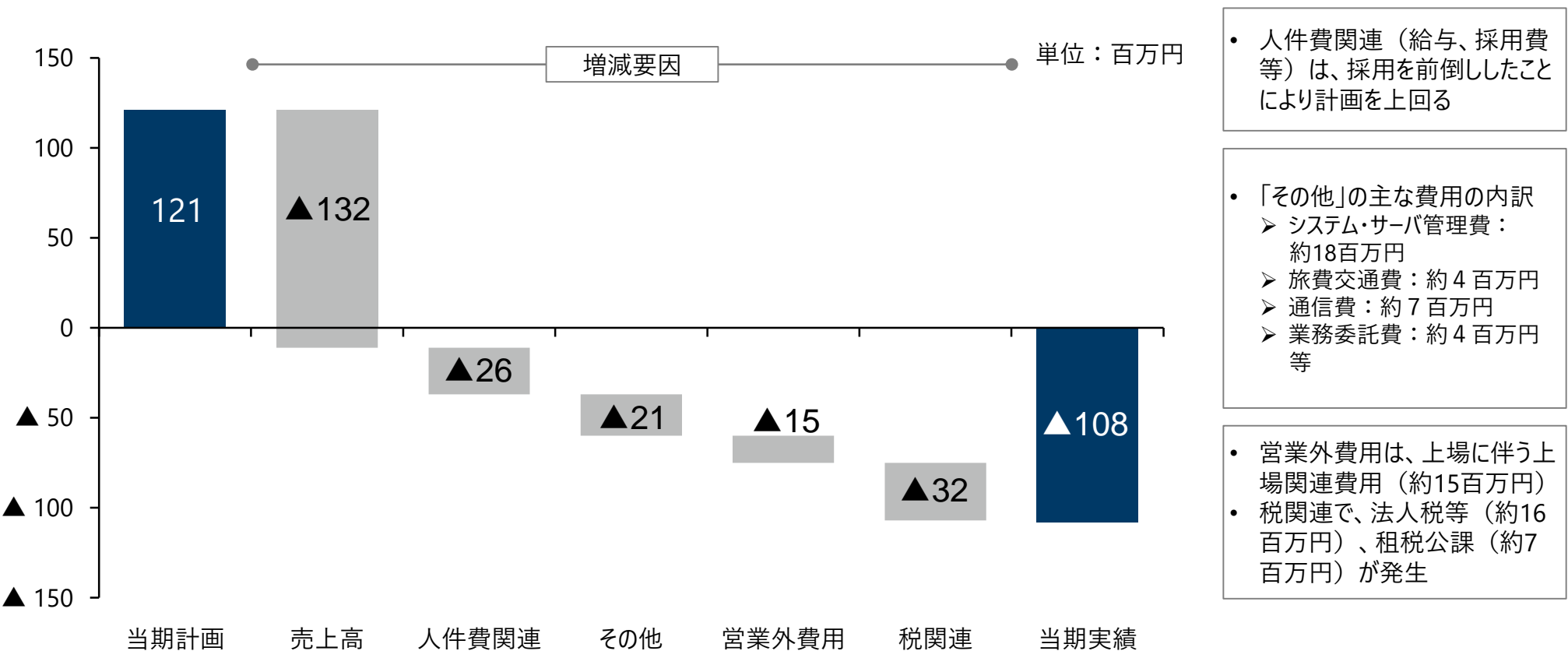
注1：連結ベース

注2：ASPサービスの概要については、次ページをご参照ください。小数点処理のため、金額と増減率の計算が一致しない場合がございます。

注3：小数点処理のため、差異内訳が合計と一致しない場合がございます。

2019年7月期 純損失 対計画増減要因

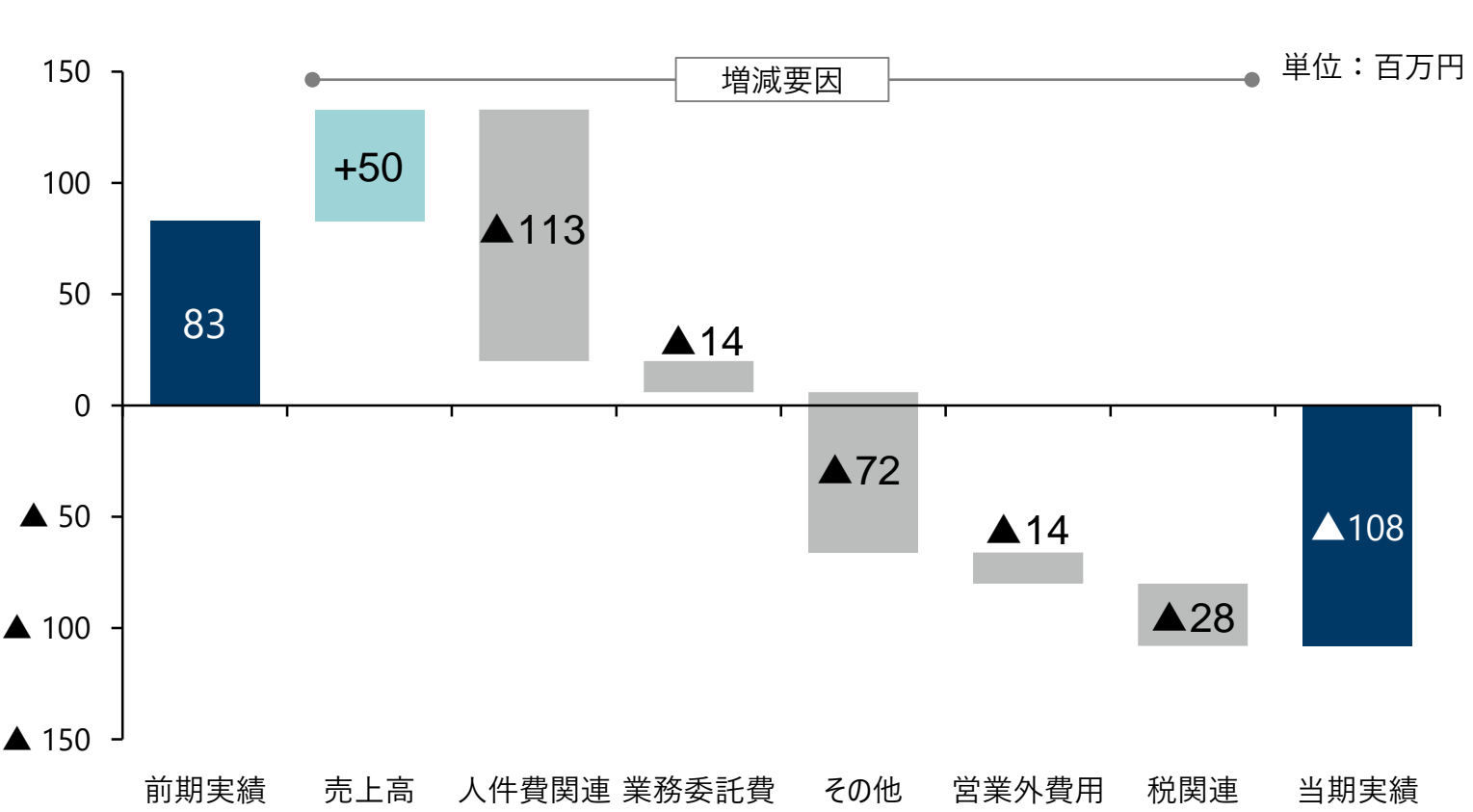
2019年7月期 親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



注：小数点処理のため、差異内訳が合計と一致しない可能性があります。

2019年7月期 純損失 対前年増減要因

2019年7月期 親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



- 人件費関連（給与、採用費等）の増加は、事業拡大に伴って発生

- 業務委託費は、上場に伴う一時費用約13百万円（営業外費用とは別費用）など

- 「その他」の主な費用の内訳
 - システム・サーバ管理費：約18百万円
 - 地代家賃：約10百万円
 - 広告宣伝費：約10百万円
 - 通信費：約7百万円
 - 支払手数料：約7百万円
 - 旅費交通費：約5百万円等

- 営業外費用は、上場に伴う上場関連費用（約15百万円）
- 税関連で、法人税等（約16百万円）、租税公課（約7百万円）が発生

注：小数点処理のため、差異内訳が合計と一致しない可能性があります。

VALUENEX, Inc. (米国) 第4四半期活動状況

営業活動

- 米国の有名企業（Fortune 100）との大型商談継続中
- シリコンバレーのコーポレートベンチャーキャピタルを中心にパイプラインを強化
- 中国語解析機能を活かした新しいサービスで事業展開
- 日本、米国、欧州など世界中のコラボレーターを通じてリードを拡大

受注

- 大手化学メーカーからASPの年間契約を受注

マーケティング

- Japan-US Innovation Awards 2019 - Innovation Showcase受賞（2019年7月26日、スタンフォード大学）
 - スタンフォード大学で開かれたJapan-US Innovation Awards 2019に受賞者として参加。参加者450人の前でVALUENEXのサービスを紹介。自動車関連企業のリードを獲得。
- Venture Cafe（2019年7月18日、ボストン）
 - ボストンのVenture CaféというベンチャーコミュニティでヘルスケアとビックデータをテーマとしたVALUENEXの取り組みを紹介。ボストンでコーポレートベンチャーキャピタルのリード獲得に成功。
- IPBC Global（2019年6月17日-19日、ボストン）
 - ボストンでIPBCのアニユアルカンファレンスが開かれ、スポンサーとして参加。多くの知財ポートフォリオのある大企業のリードを獲得。

採用

- シリコンバレーでデータアナリストの採用に成功

開発

- 中国のスタートアップデータベース、商品と顧客データベースなどの連携による新しいサービスを開発中

連結財政状況

株式上場及び有償第三者割当増資等により、自己資本比率は86.9%となりました。

単位：百万円

	2018年 7月期末	2019年 7月期末	増減額	増減率	主な増減要因
資産	424	1,077	652	153%	
流動資産	382	1,040	658	172%	現金及び預金 647 売掛金 6 その他 4
固定資産	42	36	▲ 6	▲ 15%	有形固定資産 ▲ 1 投資その他の資産 ▲ 4
負債	217	137	▲ 80	▲ 37%	
流動負債	215	136	▲ 79	▲ 37%	買掛金 ▲ 0 未払法人税等 7 前受金 ▲ 5 短期借入金 ▲ 80
固定負債	1	1	▲ 0	▲ 40%	リース債務 ▲ 0
純資産	207	939	732	354%	自己資本 732 新株予約権 ▲ 0

注：小数点以下切り捨てのため、差異内訳が合計と一致しない可能性があります。

連結キャッシュ・フローの状況

税金等調整前当期純損失が▲92百万円となり、営業CFは▲87百万円となりました。

単位：百万円

	2018年 7月期	2019年 7月期	2019年7月期の主な内訳
営業CF	78	▲ 87	税金等調整前当期純損失 (▲) ▲ 92 減価償却費 3 上場関連費用 15 売上債権の増加 ▲ 7 前受金の減少 ▲ 5 その他の流動資産の増加 ▲ 5 その他の流動負債の増加 6
投資CF	0	▲ 11	有形固定資産の取得による支出 ▲ 2 敷金及び保証金の差入による支出 ▲ 8
財務CF	35	749	短期借入金の減少 ▲ 80 株式の発行による収入 830
現金及び現金同等物の増減額	113	647	
現金及び現金同等物の期末残高	310	958	

注：小数点以下切り捨てのため、差異内訳が合計と一致しない可能性があります。

1

事業概要

2

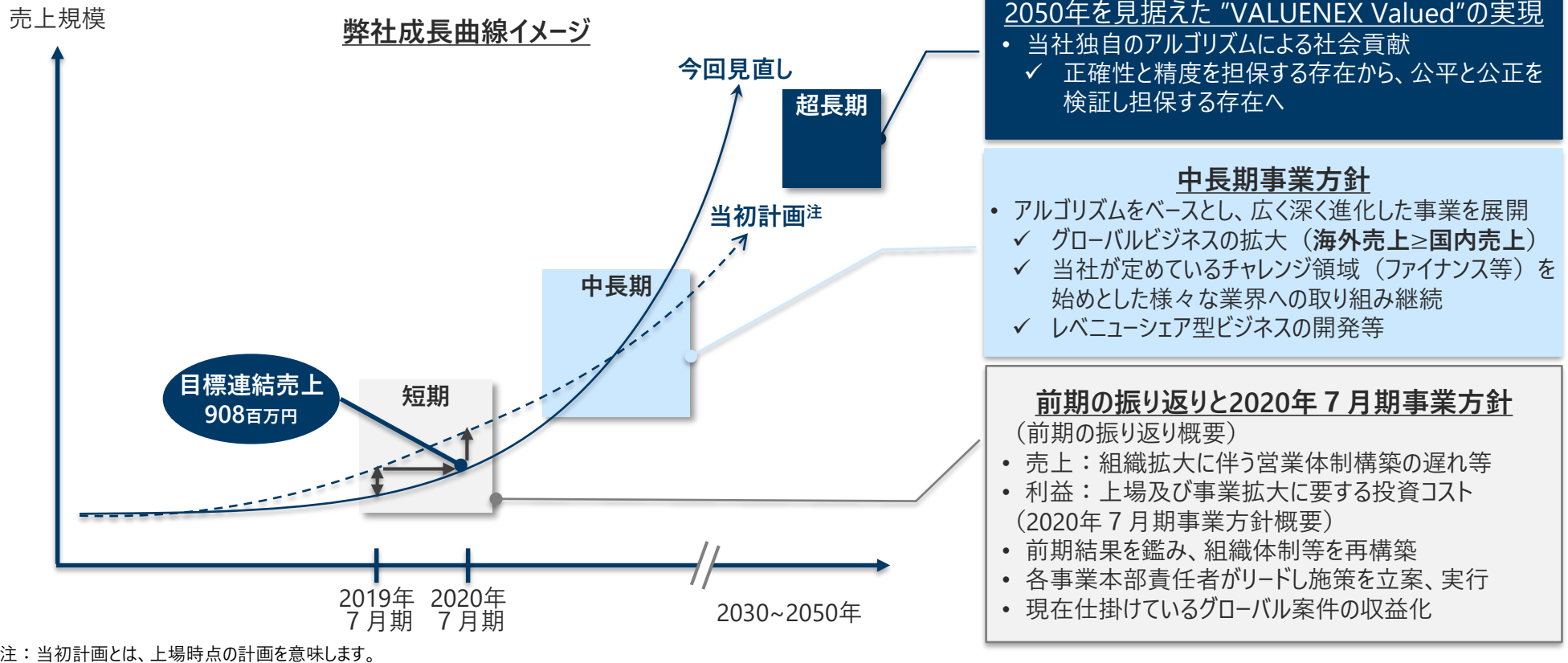
2019年7月期業績報告

3

2020年7月期業績予想

ハイライト

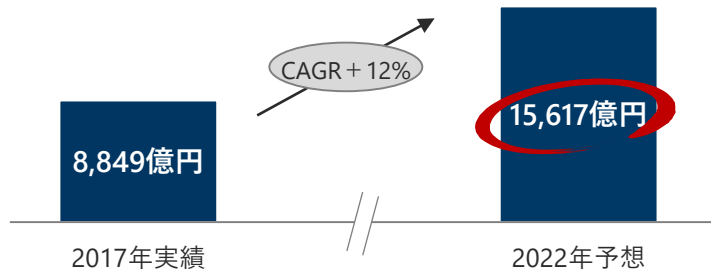
売上規模の短期的な成長は遅延していますが、中長期フェーズを境に挽回する見込みです。



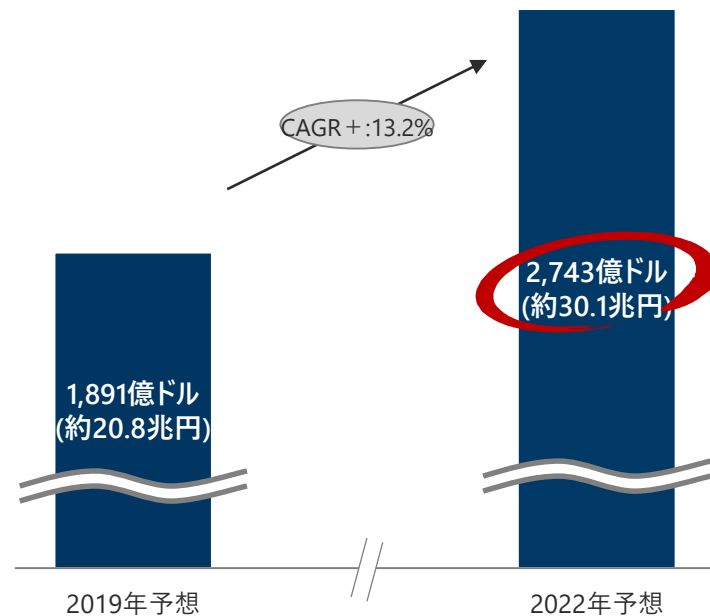
中長期における市場環境

調査会社の公開情報では、当社関連の国内外市場は成長基調にあります。

国内BDA（Big Data and Analytics Solution）市場^{注1}



全世界BDA（Big Data and Analytics Solution）市場^{注2}





注1：IDC Japan（2018年8月27日）の公開情報に基づき、当社作成。

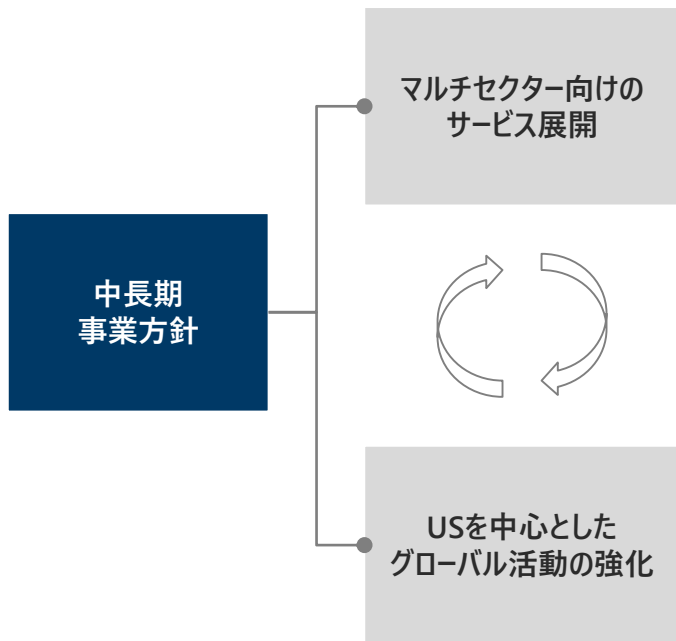
注2：IDC Japan（2019年5月9日）の公開情報に基づき、当社作成。括弧内の数値は、為替レート110円/\$として、当社にて試算しています。

中長期事業方針 1/3 【基本的考え方】

国内外問わず多様な業界の進出に向け、マーケットと開発間の事業サイクルを引き続き高速に回して、高収益化をはかります。

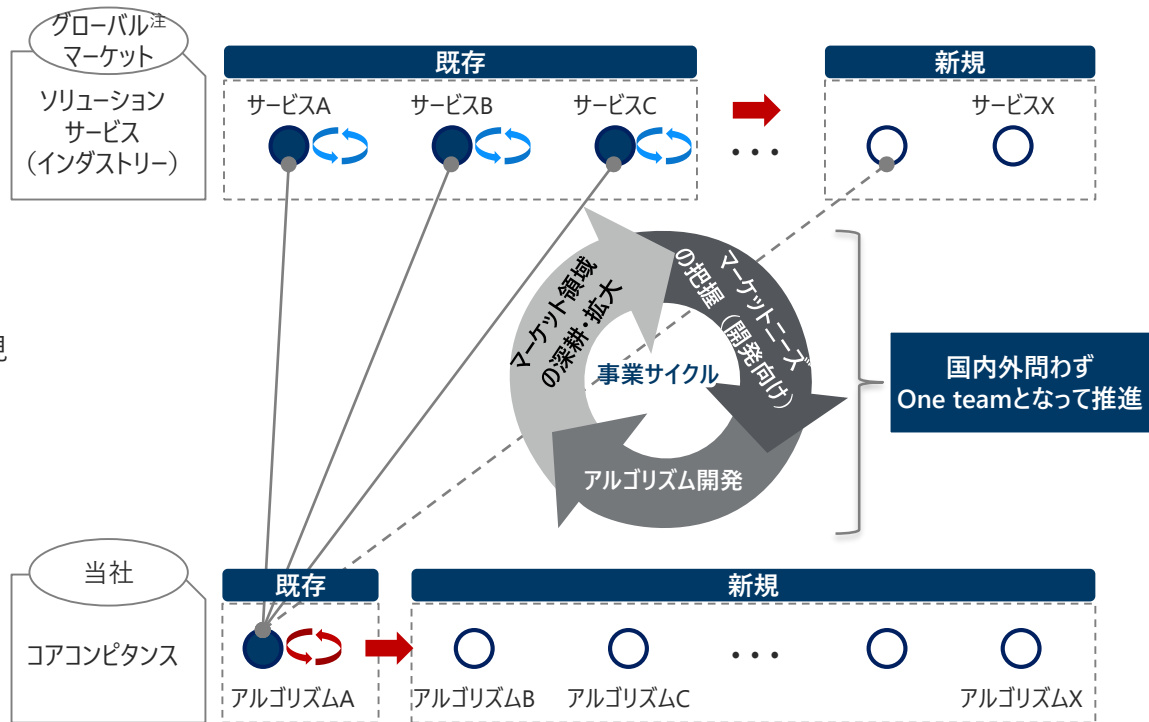
 ・サービス深耕
 ・アルゴリズム改良

中長期事業方針



事業方針実現にあたり

戦略コンセプト概観のイメージ



注：グローバルマーケットには日本国内も含まれます。

中長期事業方針 2/3

現状は製造業と官公庁向けが中心ですが、中長期的にはファイナンス/ヘルスケア/法曹界等向けも、より強化して参ります。

売上実績： 大 中 小 無		既存領域			チャレンジ領域		
		製造業	官公庁	その他産業	ファイナンス	ヘルスケア	その他(法曹界等)
ASP系	従来型ASP ^{注1}	大		中			
	業界特化型ASP						製造業/官公庁以外の業種にも積極的に展開
コンサルティング系	API ^{注2} /システム開発系						コンサル案件から各種ASP/API/アルゴリズムの改善・改良・開発へ
	現状分析型 (技術評価 技術ポートフォリオ分析 技術動向調査等)	大	大		中	中	
	現状分析に基づく 未来予測型 (R&D戦略策定 新規事業探索 アライアンス先探索/ネットワーク分析 マーケティング分析等)	大				中	社会動態を鑑みたマクロ動向分析や、新規事業探索は特にホットピック
新規系	新規サービス/ 次世代技術を利用した解析					中	コンサル案件から新規サービス開発へ

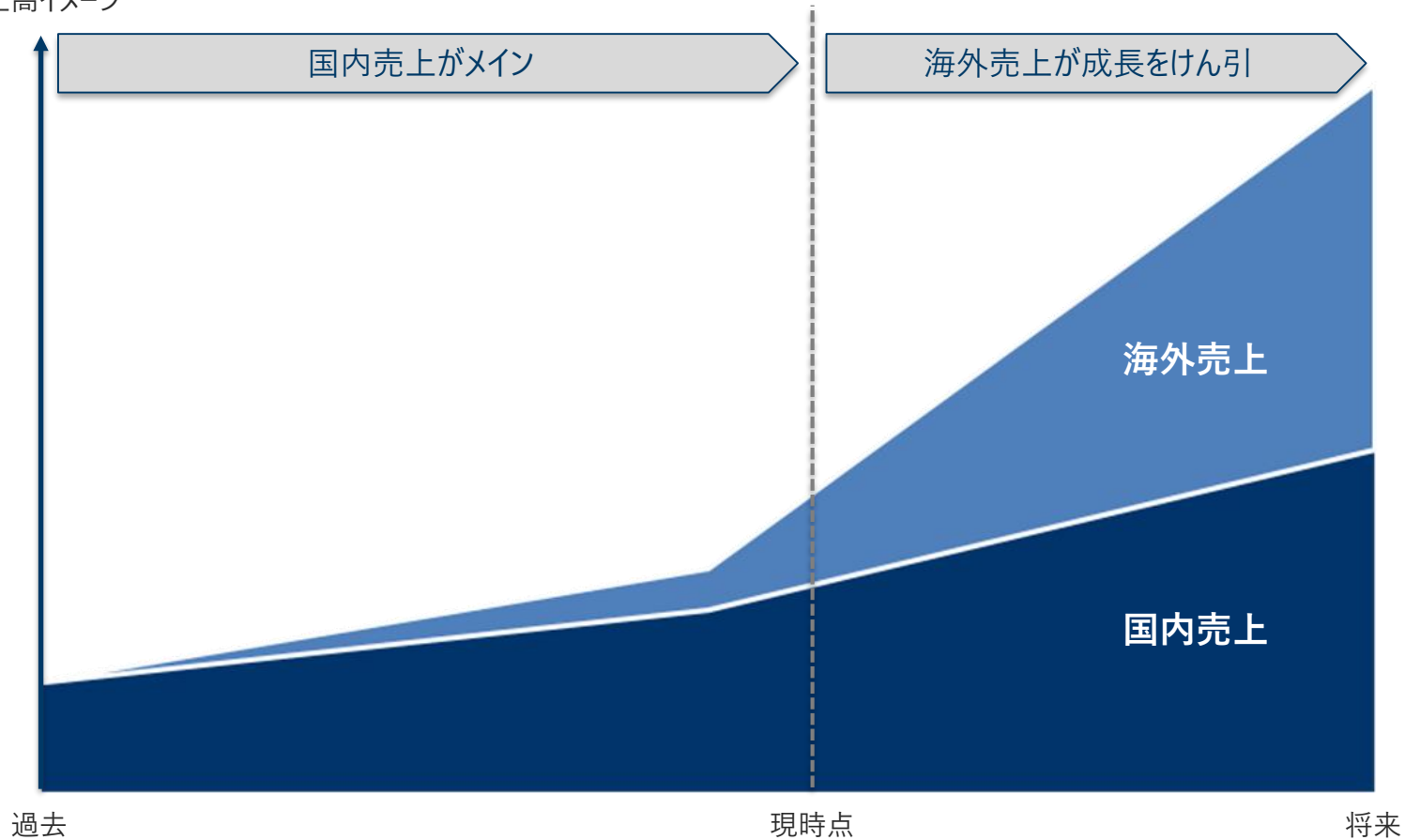
注1：ASP (Application Service Provider)とは、インターネット等のネットワークを通じて、アプリケーションソフトウェアを提供するサービスを指しています。

注2：API (Application Programming Interface)とは、OSやアプリケーションソフト等が自ら持つ機能の一部を、外部アプリケーションから利用できるようにするインターフェースを意味します。

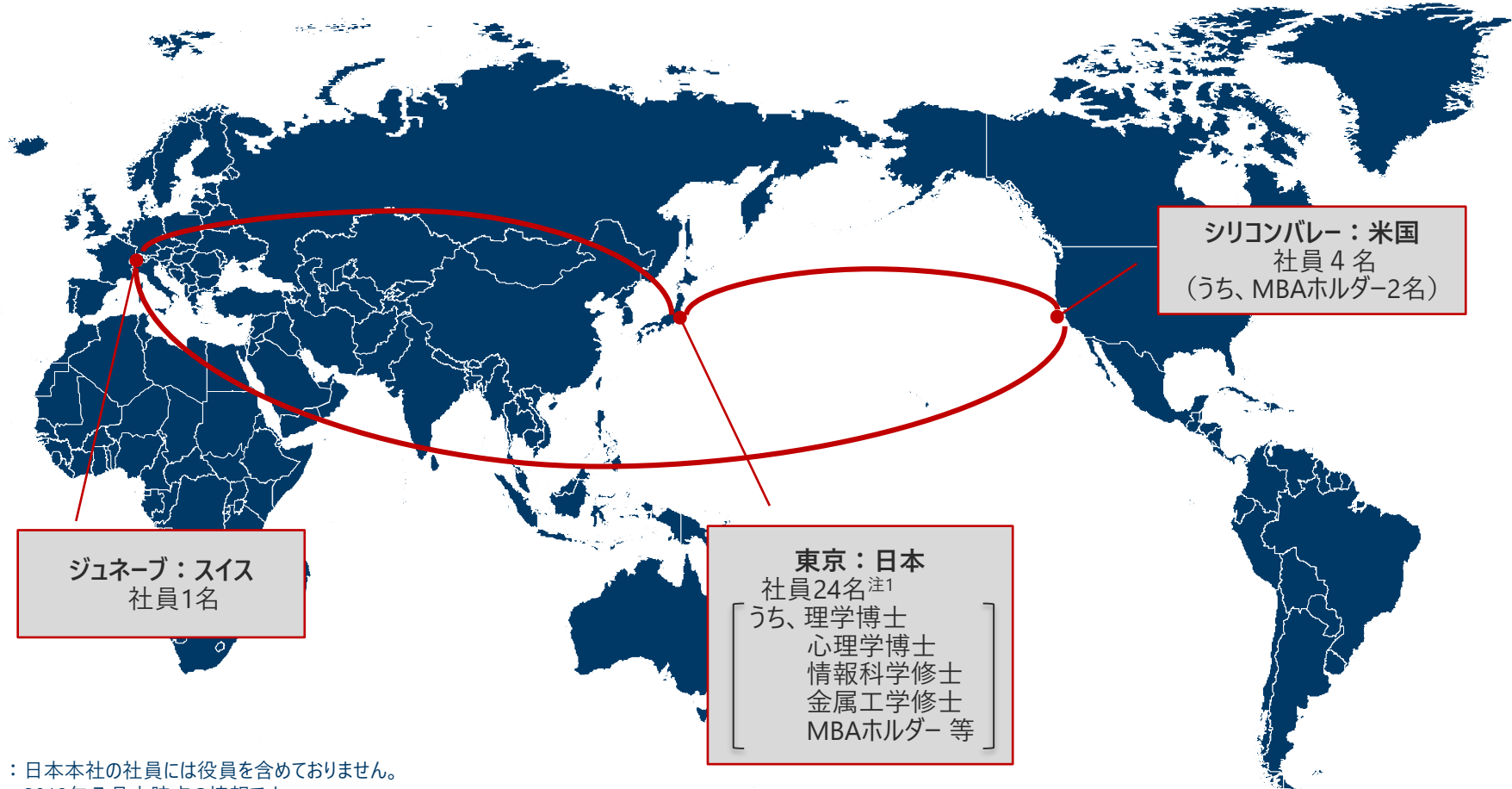
中長期事業方針 3/3

短期的には、引き続き、国内市場に注力すると同時に、USを中心とし、グローバルに当社のASPサービス及びコンサルティングサービスを展開してまいります。中長期的には市場が大きい海外売上がグループ全体の成長をけん引してゆくものとみております。

売上高イメージ



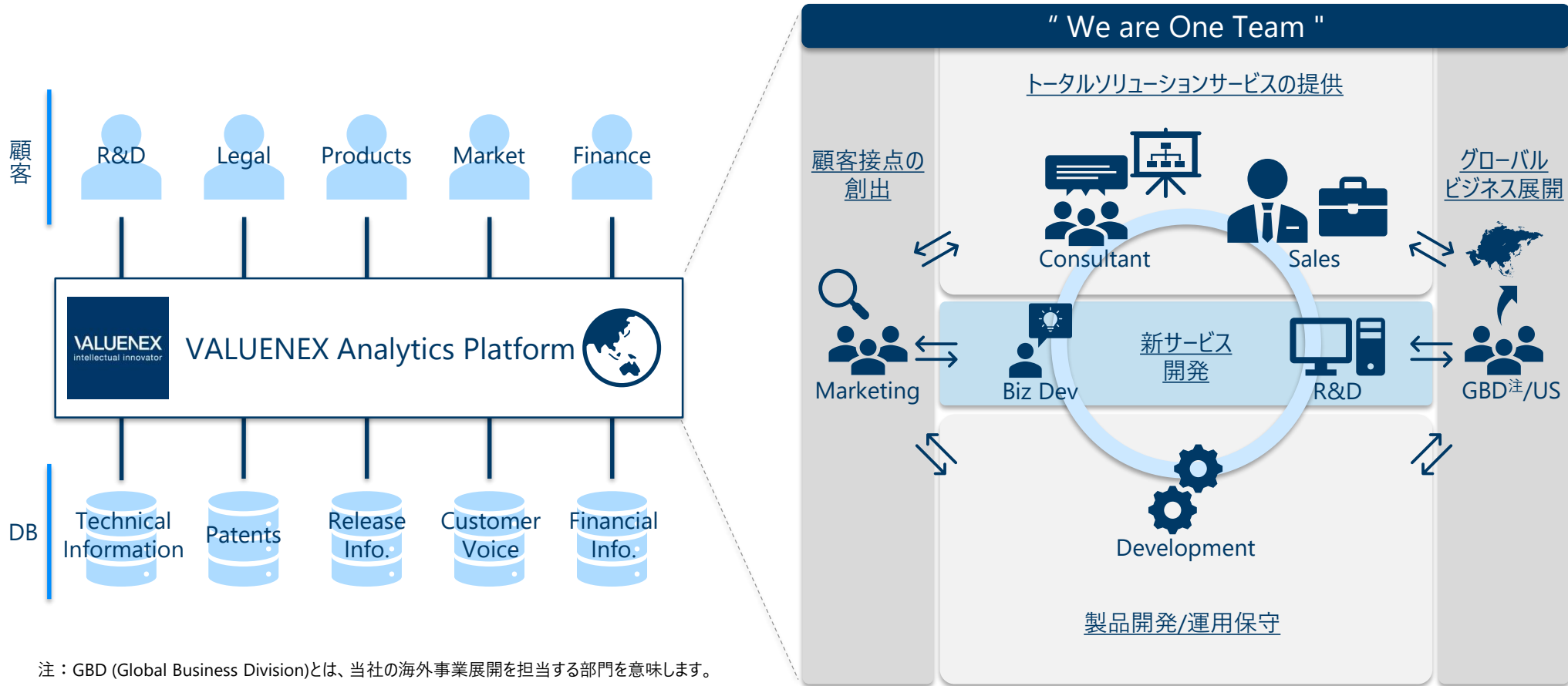
海外拠点を結んだ3極体制 – We are One Team –



注1：日本本社の社員には役員を含めておりません。
注2：2019年7月末時点の情報です。

2020年7月期の業績予想達成に向けて

当社は国内外の組織構成を問わず、1つのチームとして、一体的に業績予想達成に向けて取り組んでゆきます



2020年7月期の業績予想

ASPサービスの積上げ及びコンサルティングサービスの拡販により、売上高は前期比62.8%増を見込みます。営業体制強化のため、人員を増やしつつ、利益は黒字を確保します。

連結ベース

単位：百万円

	2019年7月期	2020年7月期 (業績予想)	対前期 増減率
売上高	557	908	+ 62.8%
営業損益	▲76	39	-
経常損益	▲92	39	-
法人税等	16	9	▲38.8%
当期純損益	▲108	29	-

	国内・海外売上高内訳		
	2019年 7月期	2020年 7月期	対前期 増減率
国内	450百万円	685百万円	+ 52.2%
海外	107百万円	222百万円	+ 107.1%
合計	557百万円	908百万円	+ 62.8%

注1：小数点処理のため、金額と対前年同期比の計算が一致しない可能性があります。 注2：為替レートは110円/ドルとして試算しています。

サービス提供実績

220を超える企業・団体の方々に当社サービスをご利用頂いております。

< 当社顧客の特徴 >

- ✓ 多くの業界のリーディングカンパニーが当社サービスを活用
- ✓ 特に、電機・化学・自動車の知的財産部門やR&D企画系部門が多い
- ✓ 最近では、金融やマーケティング分野からもご関心いただいている



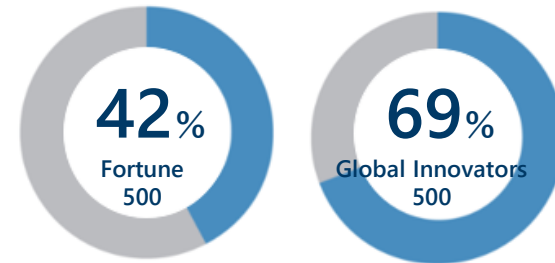
220を超える企業・団体が採用

2019年7月31日現在



20を超える業種で採用

2019年7月31日現在
上場会社提出業種



フォーチュン500
ランクイン日本企業の42%

グローバルイノベーターズ100
ランクイン日本企業の69%

Japan-US Innovation Awards 2019にて Innovation Showcaseを受賞

Japan-US Innovation Awards 2019とは日本とアメリカにおける、革新的な企業を表彰するプログラムです。
 当社は、注目すべき可能性を秘めたイノベーションを推進している新興企業が選ばれる **Innovation Showcase** に選定され、7月26日(金)、スタンフォード大学 Arrillaga Alumni Centerにて開催されるシンポジウムに招待され、講演と展示を実施いたしました。当社のアルゴリズムがグローバル市場で十分戦える技術であることがイノベーションの聖地であるシリコンバレーで公式に認められたこととなります。

<過去の主な受賞企業>

WHILL株式会社 株式会社Preferred Networks Fracta, Inc. 株式会社ABEJA



注：詳細はURL <https://www.usjinnovate.org/> をご確認ください

代表取締役、日本特許情報機構理事長賞を受賞

代表取締役社長である中村達生は、2019年3月5日、平成30年度特許情報普及活動功労者表彰において、一般財団法人日本特許情報機構理事長賞を受賞いたしました。当社が社会貢献企業であることが公的に認められたともいえます。

功 績

三菱総合研究所（MRI）に入社され、オペレーションズ・リサーチ、知財分析、データマイニングなどを研究対象の専門分野とする一方、各種分野における一般的な知財調査のみならず、技術動向調査、研究開発マネジメント、知財分析など様々な業務に取り組みました。それらの業務経験を活かし、また、経験に基づいてその必要性に関する知見を得て、可視化アルゴリズムや俯瞰解析ソフトウェアを開発されました。MRI では、これらを利用した無料サービスの提供等を行われておりました。

その後、2006年に株式会社創知を設立し、代表取締役 CEO に就任されました。2007年4月に特許可視化ツール XLUS(カイヤス)、2012年11月に TechRadar on Cloud、2013年11月に DocRadar on Cloud のサービスを開始しております。

VALUENEX 株式会社への社名変更後、シリコンバレー進出、2018年10月には東証マザーズ上場など、知財調査・ビッグデータ・予測分析分野でイノベーションを起こしております。

研究を進めてきた技術については、各種学会への論文の寄稿・発表等が行われ、特許出願により日本と米国の特許も保有されております。

VALUENEX のサービスのコアとなる技術は、元々中村氏が研究開発したものであり、これらの技術を利用した特許情報の可視化・分析は現在、特許情報業界に限らず新規事業創出やベンチャーへの投資検討などのイノベーション分野で脚光を浴びており、中村氏の技術研究、活用研究は、特許情報業界に大きな貢献をもたらしたものといたします。



日経ビジネス誌 “フロントランナー 創造の現場” (2019年6月24日号)に掲載

日経ビジネス誌 “フロントランナー 創造の現場” (2019年6月24日号)にVALUENEXが取り上げられました。成長性の高い注目企業の中の一社と認知されたと理解しております。

記事タイトル：知財データの分布を俯瞰～VALUENEX | 情報分析サービス、知的財産の分布を見える化～

誌面掲載



WEB掲載



特許や論文といった知的財産が、どの領域に集中しているかをマッピングするサービスで成長。社内にある膨大なデータを分析するためのツールを求める企業にニーズが広がる。



※シリコンバレーにもオフィスを持ち、国内の拠点とやりとりすることも (写真-岡山 社)

「自社が持つ5万件の特許を俯瞰（ふかん）して見ることができる」と VALUENEX（バリュエネックス）の文書データ解析サービスについて話すのは、旭化成の中村米知的財産部長だ。この解析サービスを同社が導入したのは2年ほど前。知財情報の分析を新事業の開発やM&A（合併・買収）に生かす「IPランドスケープ」という戦略を事業基盤強化の柱に位置付けていることが背景にあった。

Find your Future on the Radar

VALUENEX
intellectual innovator

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

Appendix

会社概要

当社はデータマイニング及びデータ可視化技術等をコアコンピタンスとし、様々な意思決定・戦略構築に資する解析サービスを提供しています。

社名：	VALUENEX株式会社
事業内容：	アルゴリズム事業
設立：	2006年8月1日
所在地：	東京都文京区小日向 四丁目5番16号
資本金：	522百万円（2019年7月末時点）
連結子会社	VALUENEX, Inc.（100%子会社） ※在米国
従業員数：	25名（2019年7月時点） ※役員除く
役員：	<p>中村 達生：代表取締役社長CEO 社長執行役員/博士（工学）</p> <p>工藤 郁哉：取締役CFO 上席執行役員/MBA</p> <p>本多 克也：取締役 執行役員 研究開発本部長/博士（工学）</p> <p>片桐 広貴：取締役 執行役員 ソリューション事業推進本部長/工学修士</p> <p>鈴木 理晶：社外取締役/弁護士</p> <p>松田 均：社外常勤監査役/公認内部監査人</p> <p>花堂 靖仁：社外監査役/ 大学名誉教授</p> <p>宮内 宏：社外監査役/弁護士</p>

ミッション及びビジョン

Mission

VALUENEXは、世界に氾濫する情報から「知」を創造していく企業です

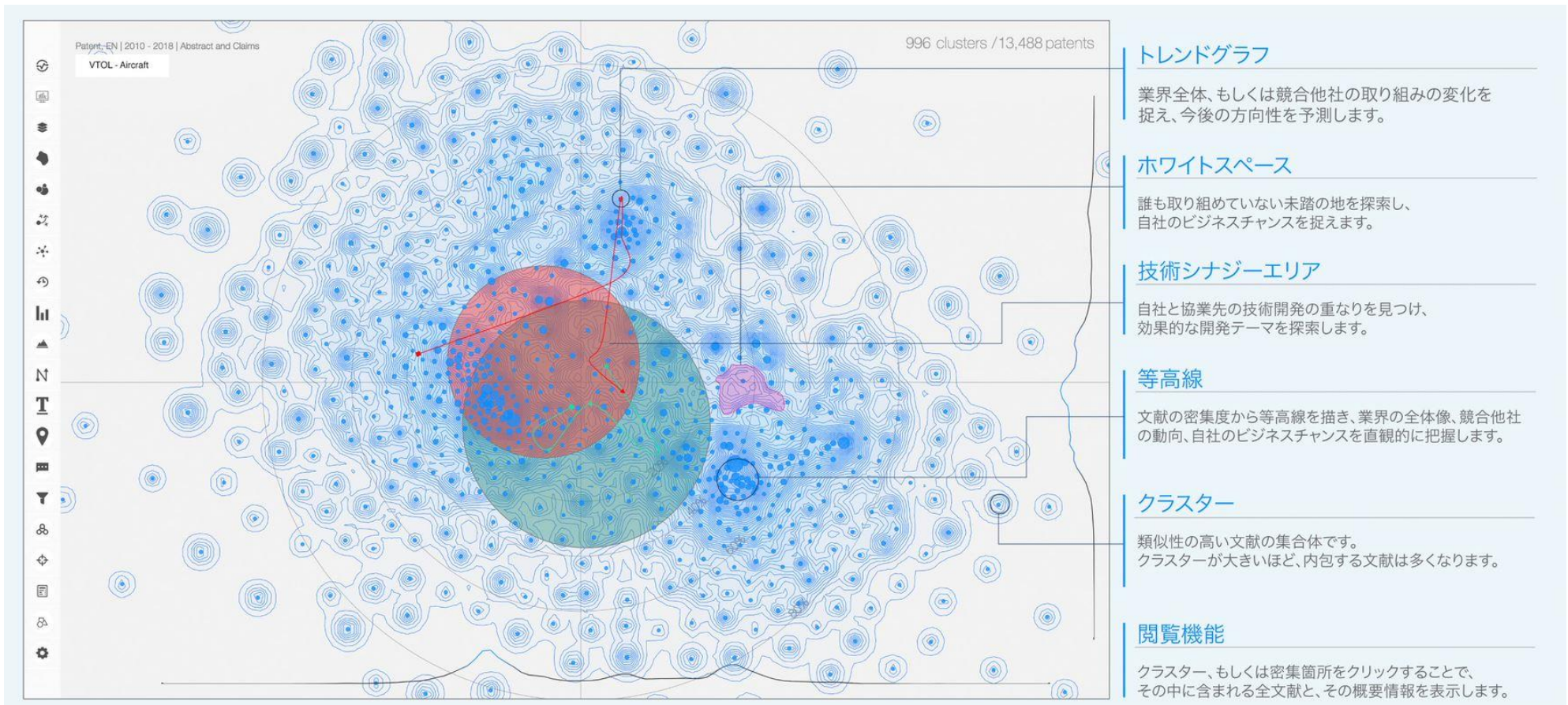
Vision

- 我々は、世界に氾濫する大量の情報を「信頼性」、「俯瞰性」、「客観性」、「正確性」、「最適性」の5つの独自の視点で融合し、価値を創造する企業です
- 我々は、世界に認知される企業を目指します
- 我々は、自ら考え、自ら行動する企業を目指します
- 我々は、「知」を求める全ての人に価値を提供します

当社ASPの検索・可視化イメージ

検索された文章に近い情報を短時間で収集・可視化し、欲しい情報と周辺情報が把握できます。

当社ASPのイメージ図（俯瞰図）

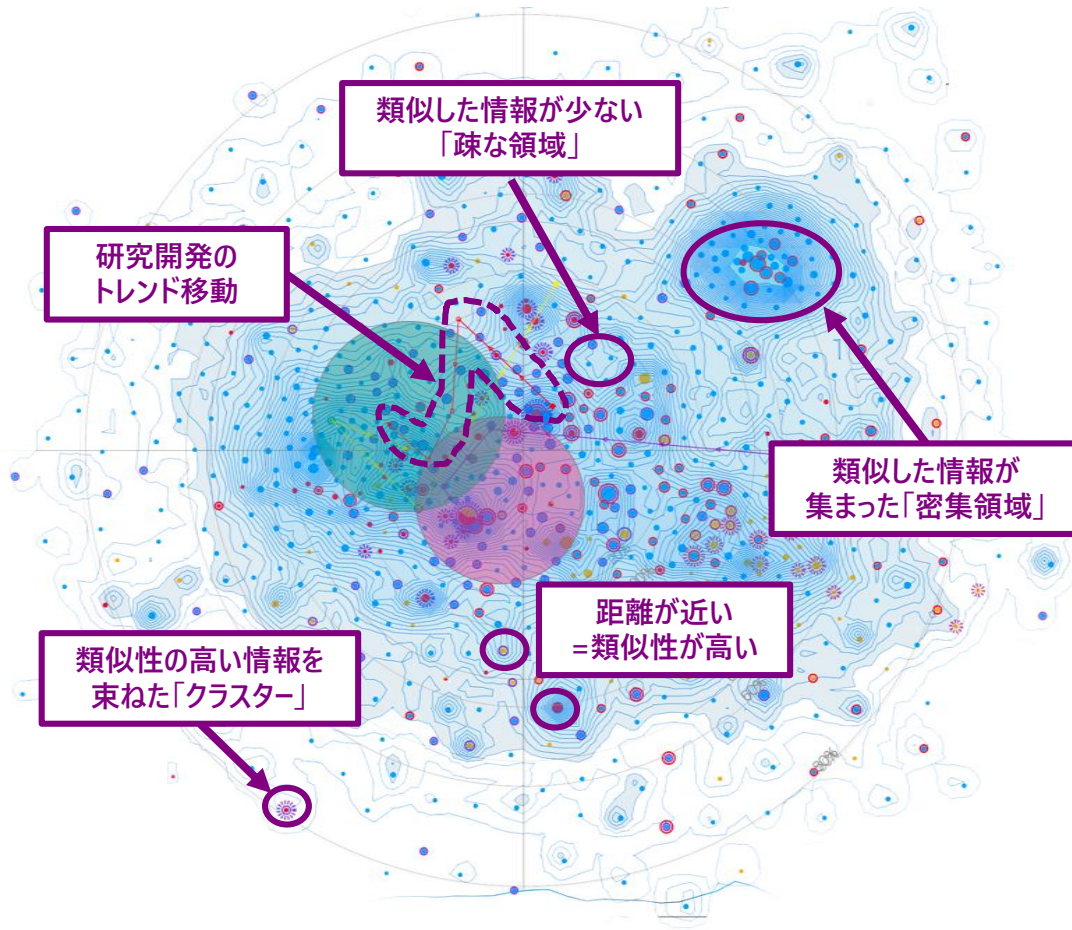


俯瞰図の読み方（詳細）

俯瞰図上の情報（距離、密度、分布、空白、萌芽等）から洞察を得ることが可能となります。

当社ASPのイメージ図（俯瞰図）

内容

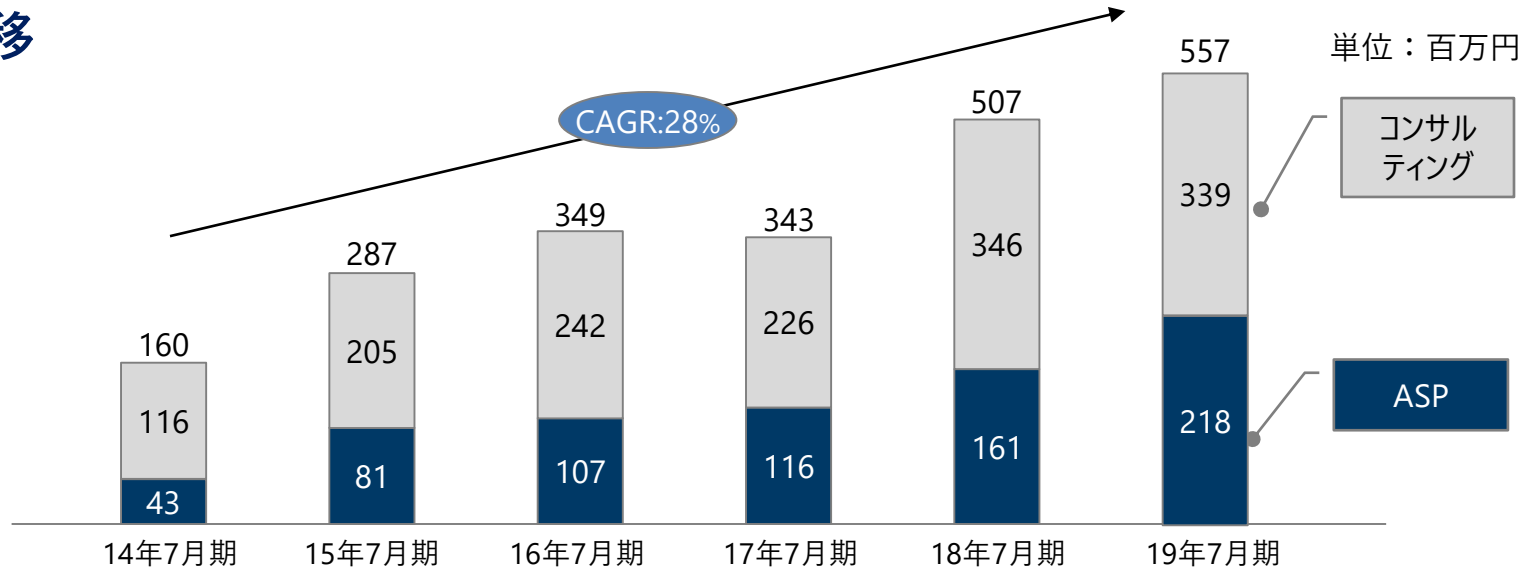


- 各プロットは似ている文書をひとまとめにしたクラスタ
- ● クラスタの大きさは、含まれる文書の数に比例
- ● ● クラスタ間の距離は、クラスタ間の類似度を表現（似ているほど近い、似ていないほど遠い）
- ● ● XY軸が予め定義されているわけではなく、クラスタ同士の類似性が最適に表現できるように配置決定

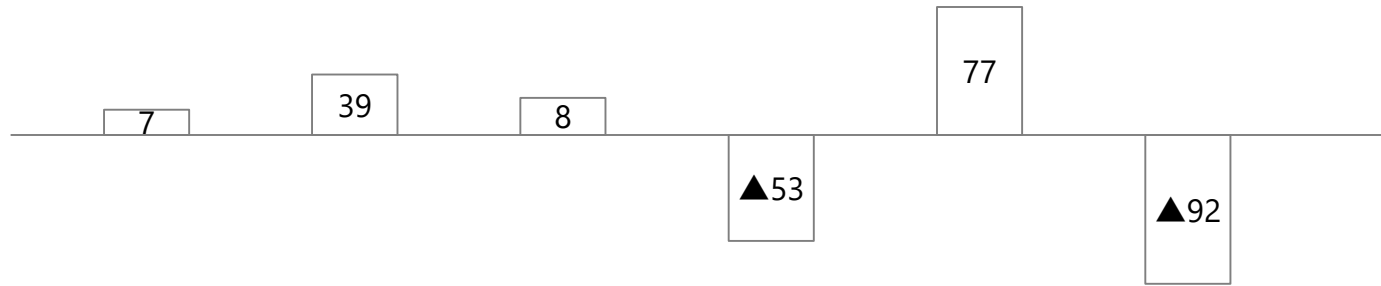
業績推移

単位：百万円

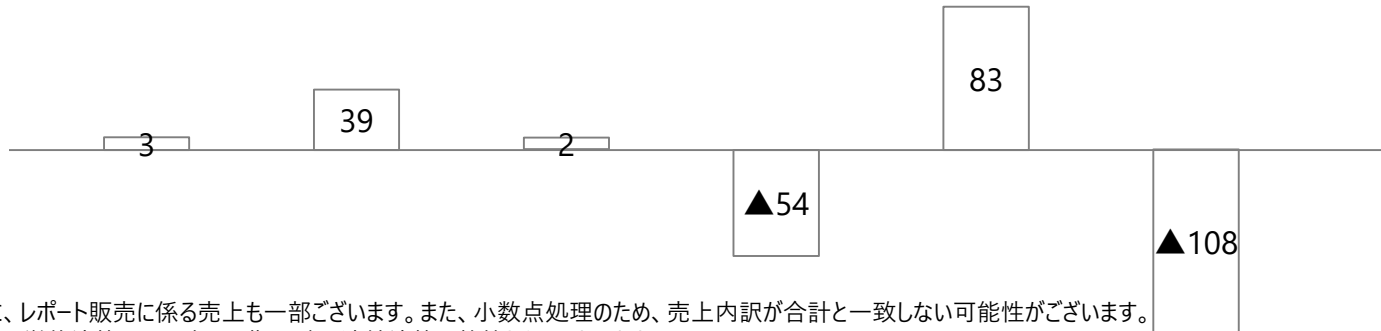
売上高注



経常利益注



当期純利益注



注：ASPとコンサルティング以外に、レポート販売に係る売上も一部ございます。また、小数点処理のため、売上内訳が合計と一致しない場合がございます。
2014年7月期、2015年7月期は単体決算、2016年7月期以降は連結決算の数値となっております。